

**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所**

- I 教育水準 ..... 教育 27-2
- II 質の向上度 ..... 教育 27-4

## I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 教育の実施体制

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当該研究科は、小児発達学専攻の1専攻、各大学の伝統を受け継ぎ、こころの発達神経科学講座（大阪大学）、こころの相互認知科学講座（金沢大学）、こころの発達健康科学講座（浜松医科大学）から構成されている。3大学の医療系・生命脳科学系、心理・教育系の教員が有機的に連携し、教育・研究に当たることで、新しい学際領域の水準を高めている。専任教員数は22名で、学生定員は10名（13名在籍）であり教員一名当たりの学生数を0.59人とするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教務担当教員が中心となり、学生からの評価、改善意見の聴取とその分析に基づいて教育方法の改善を行っている。また、遠隔地を結ぶ効果的な教育を行うために、テレビ会議システムを導入し、導入科目、研究発表会、セミナー、教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）、会議にも活用し、活発な意見交換を行っている。さらに、学生の出席確認、小テスト、資料配布等のためにWebCT（授業支援システム）を活用しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 2. 教育内容

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、異なった背景を持つ学生を教育するために、文理融合型のプラットフォームを用い、導入科目、演習科目、高度専門科目として特論を設定した。

3 大学合同でカンファレンスやセミナーを実施し、汎専攻体制で特徴的な指導を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、社会人学生に対し、定期の講義、授業科目以外にも最先端の知識を与える環境を整えるなど対応している。また、学生からの相談を通じて、教育現場における課題の解決に取り組むなど、社会のニーズにも合致する相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 3. 教育方法

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、遠隔テレビ会議システムと補助教材として e-learning を用いた導入科目と演習科目、特論科目を組み合わせた教育方法は、他に類を見ないユニークなものである。抄読会やカンファレンスへの参加により、子どものこころの課題に直面させて、自ら解決させる訓練を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、WebCT と連動した e-learning、豊富な文献データベース等 ICT を最大限に活かした学習環境が整備されており、これらは有効に活用されている。一方で、当該法人内での学習だけでなく、当該研究所が行っている臨床活動への参加も促し、学生も積極的に応じているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

### 4. 学業の成果

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、初年度は13名中9名が社会人学生、また全員が心理・教育系の学生であったが、非医学系学生全員が「小児発達医学」の単位を修得し、全科目では9割近くの単位修得率であった。また、学術論文への投稿や日本心理学会や日本発達心理学会等の学会での発表を実施しているほか、「子どものこころの課題」に関わってきた経験を基に、資質・能力を向上させているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、これまでに行った授業評価アンケートの結果では、「講義の満足度」及び「授業を受講して新しい知識や考え方の点でプラスになったか」について、9割近くの学生がプラスになったと答えており、学生に評価されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

## 5. 進路・就職の状況

[判定]

判定しない

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、いまだ修了生を出していないため、卒業後の進路状況を判断できる状態にないことから、段階判定は行わない。

「関係者からの評価」については、いまだ修了生を出していないため、関係者からの評価を判断できる状態にないことから、段階判定は行わない。

以上の点について、いずれの観点も「段階判定は行わない」との判断を行ったことから、進路・就職の状況は「判定しない」とする。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が2件であった。